



認定特定非営利活動法人 コミュニティリーダー ひゅーる ぽん

2025(R7)年度
事 業 計 画 書

(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

ゆたらかな育ちあいの場、そして新たな活動に向けて

1981年、障がいのあるこども達の生活経験を広げるという目的でひゅーるぽんを結成しました。そして2001年には、放課後に行き場のない障がいのあるこども達や不登校のこどもたちのための家庭でも学校でもない育ちの場をと「コミュニティほっとスペース」を立ち上げNPO法人としての一歩を踏み出しました。そして、2006年には、親子通所が原則の広島市こども療育センターに通うことができない未就学のこどもたちのために「ひよこ組」を開設し、やがて、2013年には、児童発達支援センターの設立へとつながりました。

2000年当時、不登校のこどもたちは約13万5千人（文部科学省）といわれていました。そして今、不登校のこどもたちは34万6千人余となっています。子どもの数は1982年以来減少し続けており、昨年は出生数72万988人となり最少を更新したにもかかわらずです。また、発達障がいのこどもたちも13年前の10倍の数ともいわれ、その割合は小中学生の8.8%と文部科学省は報告しています。その他、自殺をすることもたちやヤングケアラーと言われることもたちの増加に加え、日々の生活で不安や憂鬱を感じることもたちは全体の約60%（日本財団調査）、10代の子の精神的幸福度は世界ワースト2位（ユニセフ調査）という報告もあります。

これだけの数字が目の前に並べられると、こどもたちの「生きづらさ」を痛烈に感じると同時にその裏返しとして、「こどもたちに冷たい社会」の存在を感じてしまいます。私たちもこどもたちのことを思い、こどもたちの幸せを真ん中において活動を展開してきたはずなのですが、社会の大きな流れの中でふと無力感を感じさせられることがあるのも事実です。

そんな中、先日、高校を卒業するひゅーるぽんの子たちがその報告にやってきてくれました。東京、大阪、岡山へとそれぞれ大学に進学し一人暮らしをするそうです。出会った時からは比べものにならないほど成長し、しっかりとした姿に感激しました。また、29日にはひよこ組、きっず組それぞれで、卒園・卒業を祝いました。そこでも、やはり、生き生きとした瞳をたたえたこどもたちの成長した姿に無限の可能性を感じました。こうした社会にあっても、私たちの目の前のこどもたちに目を向けると、そこに大きな希望を感じるのです。かつては、発達が気がかりだったり不登校だったりした子たちが、前を向き胸を張って歩んでいこうとする姿に、私たちは励まされ、そしてともにその幸せを感じ合うことができるのです。

自分自身をふりかえってみると、社会はどうあれ、自分がこうして今日あるのは、家族、先生などの身近な大人や友だちの力によるものだと感じます。一緒に汗を流した部活の仲間、自分がつらく落ち込んだときに励ましてくれた人、ただただ話を聞いてくれた人、憧れを感じさせてくれた人、自分の人生に大きく影響を与えてくれた人などなど。その人たちの言葉や行動、あるいは共
Page.1

に過ごした体験が、少なからず今の自分自身につながっていることを感じます。その出会いが、自分を今日まで生かしてくれたようにも感じます。

こうしたことから、ひゅーるでは、ゆっくりとした成長の流れの中で、人とつながる力や思いを伝え協力をして成し遂げる力を育ちあいの中で身につけることを大切にしてきました。「ゆたらかな育ちあいの時間」が流れるひゅーるを特にここ数年間は大切にしてきました。

2025年度にあっても、この思いをベースに私たちは目の前のこどもたち、通所者、保護者、ご家族、地域のみなさんとともに歩んでいきます。その具体的な営み、活動を重ねていくことこそが、人を成長させ、社会を変えていくことに他ならないと考えるからです。私たちは未来へつながる「成長」に携わらせていただく者として、謙虚さと努力を持って応えていこうと思います。

一方で、社会は大変なスピードを持って変容していることを感じます。ともするとその流れに目も心も奪われてしまいそうですが、決してむやみに流されることもあわせていくこともせず、こういうときだからこそ、しっかりと未来を見据えた活動を計画的に行っていくことが大切だと感じています。私たちは、今年、時に、しっかりと立ち止まり、今、私たちができることは何か、すべきことは何かを考える時間を持つことも大切にしようと思います。これまでの私たちの歴史がそうだったように、社会の制度や仕組みでは解決しない社会課題はまだまだ多くあり、民の一歩が社会に変節点を生むことが、今もなお求められています。こども、障がいのある人の声にしっかりと耳を傾け、心を通わせ、これから先の新たな活動のあり方を考える年にしたいと思います。

この子らと世に光を。

この思いをスタッフ一人ひとりがかみしめ、歩んでいこうと思います。

重点的に検討・取り組んでいく事項

○ こども発達支援センターとして

増え続ける初期相談・初期支援のニーズをていねいに受け止め、共に歩む体制の検討

子どもたちの特性にこだわらない学齢児の成長の場についての検討

発達支援センターとしての役割の強化…専門性の強化と役割の強化

○ 就労継続支援B型事業所ぽんぽん

活動目的の再考と明確化

自立、生きがい、賃金、就労などを考慮した社会参加のあり方の検討

強みを生かした事業所の運営

○ まちづくり、ボランティア活動

NPO福祉施設としてボランティア体験の場の拡大

ボランティア活動を深め、体験の場から、帰属感とともにいっそう役割を發揮する場へ

協働型プログラム運営についての検討

アート活動、アートサポートセンター事業を通じた心通うネットワークの拡大

1.運営に関わるプログラム

総財務セクション

スタッフのより良い働き方の工夫を、継続していきたいと思います。また、業務の見直しや効率化、スリム化を図るために必要なこと、省略できることの整理をしていきたいと思います。それに合わせて、会議の見直し等も実施していきます。より良い職場環境作りに向けて取り組んでいきます。また、共感者を増やすために、思いを発信することや寄付募集の方法について考えていきたいと思います。

研修セクション

専門性だけではなく、NPOスタッフとして幅広い知見の持てるスタッフを育成していくために、研修の企画や自発的な学びを推進していきます。また、私たちの支援の要である「社会力」については、それぞれの現場で若いスタッフがすぐに日々の支援の考察につなげていけるよう、今年度はそれぞれの拠点でのケース検討を重視していきます。

重点的に取り組む内容

	支援の専門性とNPOスタッフとして見識を広げるための研修
1	(1) NPO職員としてまちづくりの見識を広げる研修 他NPOや事業から学ぶ研修の実施 (2) 「社会力」と支援の専門性を高める研修 ケース検討の実施 気になることをみんなで学び合う「みにみに勉強会」の開催 外部研修への積極的な参加促進 (3) 新任スタッフ研修・人権、身体拘束禁止・BCPについての研修
2	地域の親子を対象とした公開研修会の実施 ・他団体と協働した研修会の実施 (就学を考える あそび 食育 防災 など)
3	広報紙「うるとらのほし」の発行 年2回発行し、会員および関係機関等に送付します。

2.コミュニティスペースプログラム

1 こども発達支援センター

(1)児童発達支援事業 ひよこ組

2歳から就学前までの発達に支援の必要な子どもたちを対象とし、児童発達支援ガイドラインに基づき、生活や遊びの支援を行います。基本的生活習慣の獲得や自立をはじめ、人・集団に対しての愛着心を育み、毎日をいきいきと過ごしていくための支援を行います。ひゅーるぽん独自の社会力の視点から、子どもたちの安心感を基盤に、交流感・有能感・自己決定感の醸成を行います。

近年、共働き家庭が増加している社会状況があり、ひよこ組でも就労されている保護者の方の割合が増加傾向にあります。子どもたちへの専門的支援に加え、保護者の方への子育て支援の必要性を感じています。子どもたちの成長をひよこ組と家庭と一緒に応援していくこと、子どもたちがひよこ組でも家庭でも同じように生活の力を發揮できるようにしていくことを目指し、個々の状況に合わせた親子プログラムの実施を計画していきたいと思います。また、地域にあるセンターとして、開かれたプログラムの実施や地域との交流の機会を、作っていきたいと思います。

重点的に取り組む事業

保護者交流・家庭支援プログラム

内容・方法

(1) 保護者の方同士がつながる機会をつくる

親子参加のプログラムの実施、勉強会の実施、クラス懇談や参観の機会を多く設けることで、スタッフを含め保護者の方同士が顔を合わせる機会を作り、気軽に相談できる関係づくりにつなげます。

(2) 必要に応じて、個々の状況に合わせた対応をする機会をつくる

生活の力をつけるための取り組みのヒントや、家庭の環境に合わせた具体的な取り組みを保護者の方と一緒に考え実践する機会を作ります。

(3)卒退園後の保護者のフォローアップや交流の機会をつくる

地域交流プログラムの実施

内容

子育てサロンの利用児を含めた地域の子ども達とひよこ組通園児を対象に、オープンプログラムを実施します。

方法

外部講師や協力者を募り実施します。

(2) 放課後等デイサービス きっず組

障がいのある子どもたちや不登校の子どもたちに対して、人や社会とつながり、いきいきと自己の力を発揮していけるよう育ちの支援をします。個別支援計画に基づき、自立した日常生活を営むために必要な支援を行うとともに、安心感を基盤に、集団の中でのさまざまな主体的な活動を通して、子どもたちの「社会力」を育んでいきます。

これまでの地域交流の時間「わくわくきっず」等を通して、地域の中の遊び場の減少、遊びに対しての受動性、子ども同士での遊びの発展のしにくさなどの課題も見えてきました。少子化の一方で不登校児の増加は止まらず、学校や家庭以外の子どもたちの育ちの場の必要性を改めて感じています。適切な配慮のある環境の中で、子どもたちが主体的・創造的な関わりを通して育ち合っていく場となれるよう、今後の事業のあり方も検討していきます。

重点的に取り組む事業	
	社会力を育む支援
1	<p>内容・方法</p> <p>(1)集団でのさまざまな体験活動等の中で、子どもたちの主体性を発揮できるよう支援を行います。</p> <p>(2)安心感を基盤とした、交流感、有能感、自己決定感の育ちの分析を行い、支援に活かします。</p> <p>(3)各家庭をはじめ、教育・医療など、各々の関係機関と連携を深め、多角的に子どもたちの生活や発達をとらえ支援していくようにします。</p>
2	<p>地域交流プログラムの実施</p> <p>内容・方法</p> <p>わくわくきっずで、地域の子どもたちとの交流の時間を設けます。必要な配慮や多様な交流がある環境の中で、将来多様な人や価値観を認め合い、共に生きていくことができる子どもたちが育っていく場づくりをしていきます。</p>

(3) 相談支援事業

広島市障害児療育等支援事業=障害者総合支援法に規定する事業

障害児相談支援事業 =児童福祉法に規定する障害児地域支援事業

障害児指定特定相談支援事業 =障害者総合支援法に規定する事業

保育所等訪問支援事業 =児童福祉法に規定する障害児通所支援事業

昨年度、初期支援では電話やメール相談、個別相談や集団支援などあわせて250件を超える支援を実施してきました。近隣の小児科や子育てサークル、保健センター・ひゅーるぽんを利用される保護者からの紹介など、紹介経路が多岐にわたっており、「相談できるセンター」として地域に根付いてきています。

今年度も「気軽に」「続けて」「再び」相談できる場にしていくことを大切にしながら、ご家族に少しでも笑顔が広がるような支援をめざします。また毎週実施する子育てサロンを初期支援の柱とし、NPOとしてさまざまな団体との協働をすすめていきます。

重点的に取り組む事業	
	初期支援（広島市障害児療育等支援事業=障害者総合支援法に規定する事業を含む）
1	<p>内容・方法</p> <p>(1) 毎週火曜日に子育てサロンを運営します。（自主事業） 地域の様々な人が出入りする子育て支援スペースを引き続きめざしていきます。</p> <p>(2) 他団体との協働を積極的にすすめます。</p> <ul style="list-style-type: none">・NPO法人e子育てセンターKUSUKUSU祇園・佐東への出張発達相談・食育・遊び・防災などの子育て研修（公開研修）の実施・地域で活動する文化活動グループとの交流 <p>(3) 子どもの育ちについて「気になる」ことを早期に相談することで、ご家族が前向きに子育てにむかえる支援を行います。</p>
2	<p>障害児相談支援事業・障害児指定特定相談支援事業・保育所等訪問支援事業</p> <p>内容・方法</p> <p>障害児相談支援事業は、家族支援も意識しながら丁寧に相談にあたります。</p>

2 就労継続支援B型 コミュニティほっとスペースぽんぽん

引き続き、通所される方の思いや願いを丁寧に聞きとりそれを実現できるように取り組んでいきます。そのために、ご家族や関係機関の方々と連携し共有しながら考えることを大切にしたいと思います。また、日々の活動を通して本人たちの可能性を探り、「こんなことができるんだ」「こんなことにもチャレンジしてみたい」など意欲や自信につなげていきたいと思います。さらに、昨年十分に取り組めなかつたカフェやアートショップの運営、ギャラリーでの企画展を充実させ、地域の方々に気軽に寄っていただける場となることを目指します。ここでの出会いを通して、通所される人が地域と共にであること、地域の中で生きることにつながるように取り組みます。

重点的に取り組む事業	
	本人たちの思いをしっかり聞き取る。
1	<p>内容</p> <p>本人たちが、「したいと思っていること」「望んでいること」を、本人たちに寄り添うことで引き出していく。そして、そのためには必要な取り組みを行い、思いや気持ちを形にしていく。これについていきたいと思います。</p> <p>方法</p> <ul style="list-style-type: none">・個別面談の実施・取り組み内容の提案・日常会話・活動を通して本人やスタッフとの関係の深まり
2	<p>カフェやアートショップ、ギャラリーの充実</p> <p>内容</p> <p>地域の中で気軽に立ち寄ってもらえる場として定着していく。これについていきたいです。</p> <p>方法</p> <ul style="list-style-type: none">・SNSの利用、近隣へのチラシ配布などをしながら周知を図る。・定期的なイベント（ワークショップ、企画展）を実施する。・季節に応じてカフェのメニューを変える。・地域とつながっていくための取り組みを考え実施する。 <p>ギャラリーの無料貸し出し、地域行事への参加など</p>

3.まちづくり・コミュニティボランティア育成プログラム

1 アートによるまちづくり

障がいのある人の表現を大切にし、その多様性や魅力を伝えていくことで、アートを通して人と人が出会い、相互に認め合うこと、関わり合うこと、共に豊かな社会を作っていくことを目指します。アート・ルネッサンスはこれまでのネットワークを大切に、より上記のような目的を明確に持ち達成していけるよう、具体的なコンセプトについて検討していきます。広島県アートサポートセンターでは、引き続き、以下のような取り組みを充実させながら、さまざまな表現活動の広がりと高まりを支援していきます。

重点的に取り組む事業	
	広島市ピースアートプログラム アート・ルネッサンス2025
1	障がいのある人の表現を大切にしその多様性や魅力を伝えていくとともに、障がいのある人自身が参加し、表現することの楽しさや喜びを感じ合うことができるプログラムを目指します。 会期：2026年1月31(土)～2月8日(日) 場所：合人社ウエンディひと・まちプラザなど 広島市被爆80周年記念事業と協働して開催
	令和7年度広島県文化芸術活動支援事業「広島県アートサポートセンター」
	内容・方法 普及啓発・情報発信事業の実施 YouTubeチャンネルやSNSを活用し、障がいのある方々の文化芸術活動の魅力を発信。 人材育成：アートセミナーとおしゃべり会 表現を楽しむことを目的に、アートに関する学びや意見交換の場を提供。 創作活動支援事業：文化芸術活動体験ワークショップ（計3回） 直接体験を通じて創作活動の楽しさを伝え、自己表現の機会を増やす。 専門家派遣とアートスペースの提供 文化芸術の専門家を派遣しと障がいのある方々が自由に創作できる場を提供。 2 鑑賞プログラムの実施 障がいのある方々が美術館や劇場などで芸術鑑賞できる機会を設ける。 助成事業「アートの巣箱」 文化芸術活動を行う障がいのある方や団体への助成。 ネットワークの構築 施設・事業所・文化施設・支援者とのネットワークを形成。情報共有や協力体制を強化。 相談対応の実施 障がいのある方や支援者が気軽に相談できる文化芸術活動に関する相談窓口を設ける。
3	その他 幸せプロダクツ アートレンタル事業・アートスペース（陶芸・絵画）の実施

2 地域・社会啓発つながりづくり

地域食堂「みんなおいでや」では毎月、オープンとともに心待ちにしてくださる地域の子どもたちや近所の方が来てくれるようになりました。気軽に会食を楽しむことから、みんなが顔見知りの関係へ、さらに会話が広がり居心地の良い空間へ、そして人のつながりを感じられるような地域食堂を目指していきたいと思います。あわせて、学生ボランティアや保護者ボランティアの皆さん、さらには活動に共感していただき協力していただける人の輪も広げていける1年にしたいと思います。

重点的に取り組む事業	
	地域交流プログラム (1) 地域食堂「みんなおいでや」 毎月第3土曜日に継続して行います。来た人が会食をするだけでなく会話や雰囲気を楽しめる工夫やきっかけを、保護者・ボランティア・そしてスタッフが協働し作ります。 (2) 夏祭りや夕暮れコンサートなどつながりをつくり深める活動を保護者やボランティアさん、地域の方とともに協働し行っています。
1	地域協力プログラム 公民館まつり、区民まつり等地域行事への協力をすることで地域のにぎわいに貢献し、地域住民とつながりを深めます。
2	

3 ボランティア育成

今年度も学生を対象にした「夏のボランティアプログラム」を企画します。このプログラムを軸にしつつ、年間を通じて継続的にボランティアで足を運んでいただける受け入れ体制をつくります。

また、引き続き学生や社会人、企業のボランティアを積極的に受け入れながら、一緒にまちづくりや地域課題を考え、事業展開していきます。

重点的に取り組む事業	
	ボランティアセンタープログラム (1) 「ボランティア体験プログラム」の継続実施 近隣の高校生・大学生を対象にした「ボランティア体験プログラム」を前年度に引き続き実施します。活動参加しやすい長期休暇中に期間を設定し、ひゅーるぽんの行う様々な活動を通して視野を広げていけるようにしていきます。 (2) 年間を通してのボランティア参加促進と受け入れ 学校等との連携を行なっていきながら、ボランティア希望者が気軽に活動参加できる環境を作っていくします。また、既存のボランティア登録者には定期的なメール配信（活動情報や行事の案内）を通して活動参加を呼びかけていきます。
1	